



ギャラリー天竺 代表 中川亮一 氏



プロフィール

1973年 静岡県沼津市生まれ。1997年 筑波大学人文学類卒業。1998年 (株)中物産入社。2011年 静岡県三島市に「ギャラリー天竺」を開設。仏教美術品を扱いつつ、写仏セット、紙鎧など様々なオリジナルのミュージアムグッズの開発を多数手がける。仏教美術展、頼朝行列こども甲冑隊など、展覧会やワークショップ等を多数開催。

「面白がる」力が つむぐ豊かな地域へ

加屋町にある「ギャラリー天竺」は全国でも珍しい仏像・仏画を専門に扱うギャラリーだ。代表の中川亮一氏は、ギャラリー経営のみならず、商品開発、ワークショップ企画、映画プロデュースなど様々な活動を行っている。地域のかくれた魅力を探して楽しむ達人の中川氏にお話をうかがった。

—— ギャラリーのお仕事について教えてください。

仏像の販売を始めたのは父で、以前は百貨店の美術画廊などで展示販売を行っていました。次第にインターネット販売に時代が移り、2011年に商品を実際に見ていただける場所として、古いビルを全面改装してギャラリーをオープンしました。

国内外から集めた仏教美術品の販売はもとより、仏像や仏教を身近に感じてもらえるような商品開発もアーティストと共に積極的に行っています。最近では仏画のコレクションを活用した曼茶羅タロットカード「観仏符(かんぶつふ)」を作りました。今、御朱印を飾る掛け軸も開発中です。骨董屋とも仏壇屋とも違い、同業者にはまだ出会ったことがないですね。

小さい頃から仏像や仏教に関する本が身近にある環境で育ったので、自然に好きになりました。大学の頃は仏像より仏教に興

味があり、哲学科で宗教学を学びました。この商売についてはからは、仏教の教えのいくつかは、仏像から生まれてきたのではないかと思うようになりました。いい仏像を見た感動が先にあったのではないかと。理論を学んだ学生時代から、日々仏像と向き合ってきた考えもあります。

全国からファンが訪れる
仏像のための場所

このギャラリーには全国からいろいろなお客様がいらっしやいます。ネットショップから入って、気になるもののお実物を見にくる方が多いです。

インターネット販売が中心になったのは時代の流れですが、不特定多数に対する東京の百貨店や貸し画廊で展示をするよりも、仏像を置くようにデザインしたこのギャラリーの方が作品も魅力的に見えるように思います。

お寺のご本尊になるような一点ものの手の込んだ作から、お手頃な仏像ストラップまで揃っているのが、気軽なコレクションやお守り、占いの道具などとして求められる機会も多いです。「これ誰が買うの?」と思うような変わった物も、マニアックなお客さんが遠くから来てくれます。

地域の埋もれた魅力を 発掘する面白さ

——他にもいろいろな活動をされていると思いますが、どのような考えからでしょうか。
地元で隠れているもの、地元の人がいものものに認識していないものを、視点を変えて発掘することができるかと思っ

ています。
その一つが川原ヶ谷の瀧川神社です。10年ほど前に、三嶋大社の鬼門にあたる場所に何かあるのではと地図を眺めて見つけました。実際に行ってみると、これが滝行するの

にちょうどいい。早速許可を取って滝行してみたり、アート写真集を作ったりしました。2013年に火災に遭う前の社殿の姿が納められた貴重な写真になりました。
それが商工会議所に伝わり、収穫を祝う新嘗祭と繋がりました。青年部の方々が瀧川神社で禊をして、野菜をのせた宝船をかついでいく三嶋大社に奉納する行事になりました。

今はパワースポットとして評判が広がっているようで、自分には何の利益もないけど盛り上がりすぎてしまったら、ギャラリーのお客さんが、「瀧川神社のついでに」と。三島と関係ない人が瀧川神社の話をして嬉しかったですね。
——「コロナ禍で変化化したことはありませんか?」
「疫病の時は田舎に引込んでクリエイ

ティブな活動をする」と書かれたものを読んだので、20年くらい構想を温めていた「観仏符」の製作を始めました。

コロナ禍のアーティストを支援する県の助成金(ふじのくに#エールアートプロジェクト)で、地域のクリエイターを集め、映画『路地裏探訪 the movie』(監督/アレックスサンドロ・ヨッシニ)のプロデュースもしました。映画は今年(2022年)ハンプルク日本映画祭賞を受賞しました。この機会に引きこもって、前からやりたかったことをできてよかったです。
——子供向けのワークショップもされていますね。

子どもの頃の面白い体験 が豊かな発想力になる

数年前 段ボールの甲冑キット「かみよろい」を開発しました。簡単に甲冑隊ができるので、全国の祭りで使ってもらえるのではないかと思います。三島では、小学生がワークショップで組み立てた鎧を着て夏の三島大祭りの頼朝行列で行進したり、商工会議所青年部が山中城で子どもたちの合戦を開催するなど活用いただいています。

小さいうちに色々な面白い体験をしておく、豊かな発想ができる大人になると思うので、変わった体験を子どもたちにさせてあげたいと思っています。
——多くの人とつながり、面白いことを作り出しに行くのが得意なんですね。



「かみよろい」のワークショップで解説をする中川さん

色々なことを面白がるのは、そういう「性質」なんです。僕は人よりはるかに面倒くさがり屋なので、何かしたい時は地域にたくさんいる有能な人に仕事や役割を渡していくんです。一人で作るの大変でも、能力のある人たちがちゃんと動いてくれることであまりいいんですよ。なので、その人が本当に得意とすることをよく見よう

ひとりひとりの能力が 発揮できるまちに

僕はゲーム世代の人間なので、シミュレーションゲームの能力値を見るような感じです。子どもの頃いろいろなゲームをしたことがベースにあつて、ゲームのキャラクターを配置するように、この人をここに持っていくと、すごい力を発揮するかなど

考えて、うまくいけば、色々なアイデアが実現すると楽しんでいます。生きていること自体がゲームであるみたいな感覚もあるかもしれません。ひとりひとりが適切な場所

で能力を発揮することが、まちの活性化だと思っています。

——三島にはどんな印象がありますか?
SF作品に出てくる、宇宙空間で地球の環境を再現したスペースコロニーのように、高度に発達した都市と豊かな自然が共存する、理想の都市を目指せる可能性が三島にはあるように思います。

古い建物を大切にしたり、街中をもっと水がよく流れるようにしたり、生き物が豊かな自然環境を作ったり……。そこに文化や芸術もたくさんある。新しく建物を建てる時にも、環境と調和するような気遣いができたらいいと思います。便利で新しいものも取り入れていきながら、古いものや自然環境を大事にする街になるといいですね。

ギャラリー天竺



三島市加屋町 1-13 中川ビル
TEL : 055-972-9676
※ギャラリーは完全予約制

三島カルチャーをつくる人びとは、三島の文化応援プロジェクトが、三島周辺に拠点を置く企業や三島の文化に関わる方々に、三島の文化についてインタビューするシリーズ企画です。配布場所/生涯学習センター、三島市民文化会館、市内文化施設等 詳しくは下記のwebサイトをご覧ください。